

答え合わせ・解説

問1	答え 3 天然ガス	ロシアや北米で産出が盛んなのは天然ガスです。天然ガスは化石燃料の中でも燃焼時の環境負荷が比較的小さいため、地球温暖化対策の一環として、石炭や石油からの転換が進められています。ロシアはこの資源の巨大な埋蔵量を持ち、欧州などへパイプラインを通じて供給しています。
問2	答え 1 建設から時間が経過し、住民の高齢化と年少人口の減少が同時に進む少子高齢化が大きな課題となっている	多くのニュータウンでは、特定の時期に一齐に入居が始まったため、数十年後に住民が一齐に高齢期を迎えるという特徴があります。これにより、若年層が減り高齢者が増える少子高齢化が急速に進行し、学校の統廃合、空き家の増加、商店街の衰退、福祉サービスの不足といった問題が顕著になっています。若年層のみが増加しているという事実はなく、またニュータウンは主に居住機能を担うため、工場の撤退などを指す「産業の空洞化」とは区別して理解する必要があります。
問3	答え 1 高速道路などの交通網が整備されたことにより、部品の輸送が容易な機械工業を中心として、内陸部での工業団地の開発が進んだ。	1970年代以降、高速道路などの交通網の整備が進んだことで、港から離れた場所でも製品や部品の輸送がスムーズに行えるようになりました。特に、部品を組み立てる工程が多い機械工業（自動車や電子機器など）は、製品や部品が比較的軽量で高付加価値であるため、臨海部よりも安価で広い土地を確保しやすい内陸部の工業団地へ進出する傾向が強まりました。これにより、従来の四大工業地帯以外の地域にも工業が分散しました。
問4	答え 1 通信機や医薬品など、軽量で高付加価値な製品を主に扱っているため	航空輸送は運賃が高いため、単価の低い原材料や重量物の輸送には向きません。一方で、通信機や電子部品、医薬品などは、製品そのものの付加価値が高く、迅速な輸送が求められるため、航空機による貿易の主力品目となります。成田国際空港はこれらの品目の巨大な貿易拠点となっており、2019年の統計では輸入額全体のうち55.2%を占め、特に通信機が品目別1位となっています。
問5	答え 1 東京などの大消費地に近く、新鮮さが求められる野菜を短時間で出荷できる都市近郊農業が発達しているため。	千葉県は首都圏という巨大な市場に隣接している地理的条件を活かし、輸送時間を短縮して鮮度の高い農産物を届ける「都市近郊農業」が非常に盛んです。そのため、米や果実よりも、鮮度が重視される野菜の農業産出額に占める割合が高くなる傾向にあります。
問6	答え 1 海外生産	日本の自動車生産の歴史を振り返ると、1980年代半ばまでは日本国内で作って輸出する形態が主流でしたが、円高の進行や貿易摩擦への対応、市場への近接性を重視する戦略から、海外での生産台数が急速に伸びました。この推移は、日本の産業構造がグローバル化したことを象徴しています。
問7	答え 1 国内消費量と国内生産量の差（約400万トン）を輸入に頼っているため、自給率が下がっている。	食料自給率は「国内消費量（分母）のうち、どれだけ国内生産（分子）でまかなえているか」を示す指標です。1980年にはこの両者がほぼ等しかったため自給率は高い水準にありましたが、2012年の統計に見られるように、国内生産量が消費量の半分程度まで減少すると、不足分を海外からの輸入で補わざるを得なくなります。分子となる国内生産量が減少することで、計算上の自給率は必然的に低下する仕組みになっています。
問8	答え 1 原料となる原油のほぼ全量を海外からの輸入に頼っており、大型船での受け入れに便利だから。	日本は石油化学工業の主原料である原油のほとんどを、中東などからの輸入に依存しています。そのため、大型タンカーで原油を直接運び込み、そのまま加工・精製を行って効率的に製品を作るために、港湾設備が整った太平洋ベルトなどの臨海部が工業の拠点として適しています。選択肢にある「質の高い水」は電子工業（半導体など）、「内陸部との連携」は自動車工業などで重視される傾向があります。